

きんちやい! みんちやい! あそびんちやい!

東区ちやいちやいまつり



昨年の様子

昨年復活した東区ちやいちやいまつり。今年は飲食ブースを再開し、参加グループやボランティアさんのご協力のもと、福祉体験コーナーや遊びのコーナーに加え、手作り品の販売など、昨年より規模を拡大して開催します。ぜひお越しください。

日時 令和5年11月26日(日) 10:00~14:00 (飲食は13:30まで)
会場 東区総合福祉センター3階

ボランティアスタッフ募集!



ご協力いただける方は11/2(木)までに東区社会福祉協議会にお問合せください。

ご報告

ボランティアグループ連絡会役員会を開催しました

8月30日(水)、ボランティアグループ連絡会役員会を開催しました。堅山代表、土手副代表、長船監査、佐島会計が出席し、研修会及び交流会について話し合いました。各ボランティアグループから提出いただいたアンケートをもとに、決定しましたのでお知らせします。

研修会

日時: 令和5年12月14日(木) 10:00~12:00
内容: 「身近な福祉サービスの現状と利用について」
講師: 福木・温品地域包括支援センター長 福永 栄市郎 氏

※一般の方の参加も可能。後日参加募集します。

交流会

日時: 令和6年2月29日(木) 10:00~12:00
内容: グループの活動紹介第二弾

知ってる? Vol.3

ヤングケアラーって?

日本ケアラー連盟では「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を担う子ども・若者たち」のことを「ヤングケアラー」としています。

例えば

介護が必要な祖父母がいる。
親に精神疾患・精神障がいがある。
親が外国人のため日本語が苦手。

それゆえ子どもが

家事(料理、洗濯、掃除など)をする。
年下のきょうだいの世話をする。
介護、見守り、感情的なサポート、通訳をする。

それに加えて...アルバイトをして家計を助けることも...

▶ ケアとは広い範囲を意味しており、身体的介護だけがケアではないのです。いくつかの調査で、日本の子供の4~6%、1クラスに2人くらいの子どもたちがヤングケアラーであることがわかっています。

▶ ヤングケアラーが抱える問題や困りごとには次のようなことがあげられます。
○ 学校生活への影響 → 遅刻、欠席、宿題忘れ、成績不振「学校が楽しくない」
○ 健康面への影響 → 精神的健康、身体的健康に影響が出る場合がある。
○ 友人関係への影響 → 話が合わない、トラブルなど

そのほか、衛生面、栄養面の影響も...



家族のケアを担うことは、得ることも多いですが、「生涯にわたって」影響を及ぼす可能性もあります。

ヤングケアラーの支援は「発見」からとされていますが、いきなりの介入はNGです。

SOSを言えない子どもに大人の側から、

気付く 見守る 情報を共有する

まずは、私たち大人ができることから始めてみましょう。

参考: 関西福祉科学大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 南多恵子氏
講義「ヤングケアラーについて学ぶ ~社協ボランティアセンターとして知っておきたいこと~」
令和5年8月31日付配布資料

東区ボランティア活動情報紙

みちしお

令和5年10月179号

〒732-8510

広島市東区東蟹屋町9-34 東区総合福祉センター4階

TEL (082) 263-8443

FAX (082) 264-9254

Mail higashi@shakyohiroshima-city.or.jp

URL http://www.shakyo-hiroshima.jp/higashi



<編集・発行>

広島市東区社会福祉協議会 東区ボランティアセンター



ボランティア活動にお邪魔しました

9月29日(金)にマエダハウジング東区スポーツセンターで開催された『広島市あいあいスポーツフェスティバル』。このイベントにハートフルボランティアとりの巣のメンバー3名が参加されました。今回は当日の皆さんの活動の様子をご紹介します。



広島市あいあいスポーツフェスティバルとは

通所施設を利用されている精神障がい者の方が、スポーツを通じて交流を図ることを目的として毎年秋に広島市主催で開催されています。当日は、ソフトバレーボールを通じて、参加者同士やボランティアの方々が楽しく交流できる場となっています。

ボランティアとして参加しました



はた 秦さん

かたやま 堅山さん

はなかに 花谷さん



今年は123名(ボランティア含む)が参加。各チームが熱戦を繰り広げました。



運営スタッフと入念に打ち合わせをする堅山さん。



「毎年少しずつ参加させてもらっています」(花谷さん)

「皆さんのプレーに入ってしまうんですよ」(秦さん)

現在、とりの巣の代表を務める堅山さん。グループ加入のきっかけは民生委員として活動していたとき偶然手にした社協のボランティア募集のチラシ。「目に留まったのがとりの巣だった」そう、以来約20年間、活動を続けていらっしやいます。

3人のお子さんが独立された今は、ボランティアで関わった人たちの成長を見られることが喜びの1つと語る堅山さん。「障がい者の方とのコミュニケーションは楽しい。」と笑います。目下の悩みは、メンバーの高齢化だそうです。

「関心のある方はぜひ気軽に見学に来てください。」(堅山さん)

ハートフルボランティアとりの巣



発足は平成19年4月。「とりの巣」という名前には「みんなが帰る場所」「みんなの居場所」という意味が込められています。その名前のお通り、グループの皆さんが家族のようなあたたかい雰囲気、精神障がい者の支援活動をされています。主な活動場所はスマイル中山とはぐくみの里。作業の手伝いや行事支援を中心に行っています。その他にも数多くのボランティアに参加されており、関連の研修等への参加も積極的です。

とりの巣では、一緒に活動してくれるメンバーを随時募集中です。関心のある方は東区社会福祉協議会までご連絡ください。

定例会: 奇数月(10:00~11:30) 東区総合福祉センター

訪問: 偶数月(10:00~12:00) スマイル中山・はぐくみの里等

会員: 12名

スマイル中山では主に通所者の作業のお手伝いをしていただいています!



スマイル中山での活動風景



◇編集後記◇

先日、東区総合福祉センターの会議室で会合をされていたとあるグループの代表Yさんが「会議室の窓からドクターイエローが見えたよ!」と教えてくださいました。「宝くじを買わなくちゃ!」と言うYさんの一言でパソコンに向かっていた職員から一斉に笑いが起こり、和やかな雰囲気。庭に咲くお花をブーケにして持ってきてくださる方もいて、お花に癒されることもあります。嬉しいことや楽しいことを共有してくださる皆さんに、この場を借りて「いつもありがとうございます!」(岸本)



茜とんぼの会

会の名前は、代表の小畑さんが旅先で見た美しい夕焼けの「茜色」と、360度を見ることができる「とんぼ」のように皆の心や気持ちまで見ていきたいという思いから付けられました。また、「茜」の花がつるを伸ばしながら成長するさまから、皆を巻き込んで成長していきたいという願いも込められています。

定例会：奇数月第2水曜日
メンバー：6名
場所：東区総合福祉センター

9月8日(金)、戸坂小学校で視覚障がい者の理解を深める学習に、福祉教育として「視覚障害者 茜とんぼの会」が初めて「やさしさ発見プログラム」の講師を務めました。「歯磨きはどうしているの?」、「買い物はどうしているの?」、「寝るときはどうしているの?」などの児童からの多くの質問に対して、当事者の思いや生活の様子、SOSシグナルについて伝えることで、視覚障がいについて深い学びを提供することができました。後日の振り返りでは、例え話をするなどしてもっと子ども達にわかりやすい説明ができたのではないかと、実践的な講義内容にしたらいのではないかなど、次回に向けての話し合いをしました。これからも、茜とんぼの会として視覚障がいの理解を啓発していきます。

茜とんぼの会は、視覚障がい者の当事者の会として、東区総合福祉センターを拠点に奇数月に定例会を開き、活動しています。全区からメンバーを募集しておりますので、関心のある方は是非見学に来てください。

福祉教育とは

福祉教育とは「思いやりの心をもって、ともに育ち、ともに生きるための福祉のこころを育む」、また「ふだんのくらしのしあわせをつくる」ための様々な取り組みのことです。これらを実現するためには、自分事として捉えることが大切です。「福祉=障がい者や高齢者、困っている人を助けてあげること」と他人事に考えがちですが、これを自分事として、地域全体・住民全体で考えていく福祉観を育てることが福祉教育には求められています。福祉教育は福祉とのふれあいや関わりをもつ機会を作り、自分事にするきっかけづくりでもあります。

参考：「保存版 福祉教育のススメ Ver.2020」
社会福祉法人 長野県社会福祉協議会まちづくりボランティアセンター

SOSシグナルとは

白杖を頭上50cm程度に掲げてSOSのシグナルを示している視覚に障害のある人を見かけたら、進んで声をかけて支援しようという「白杖SOSシグナル」運動の普及啓発シンボルマークです。白杖によるSOSのシグナルを見かけたら、進んで声をかけ、困っていることなどを聞き、サポートをお願いします。



「白杖SOSシグナル」普及啓発シンボルマーク
社会福祉法人日本視覚障害者団体連合推奨マーク

やさしさ発見プログラム事業とは

目的：「体験！発見!!ほっとけん!!!」を合言葉に実践し、1人ひとりの「生きる力」や「福祉の心」を育む生涯学習として、市民に対する福祉教育を推進するために行うものです。
事業対象：学校・地域・企業・団体等
実施主体：社会福祉法人 広島市社会福祉協議会
学習内容：福祉活動体験学習サポーター（講師・学習協力者）の協力を得て、車いす利用者や視覚、聴覚、知的などの障がい者、高齢者への理解を深めます。疑似体験や当事者の話を聞くことで、自分たちに何ができるかを考えます。

詳しいお話は東区社協まで
お気軽にお問い合わせください。
TEL:082-263-8443



in矢賀

8月23日 夏休み自主学習会

この度新たに始まった自主学習の時間にお邪魔させて頂きました。皆さん、とても静かに集中して勉強していました。この日は雨でしたが3人の子供たちが勉強に訪れていました。7月はもっとたくさんのお子たちが訪れたそうです。「家よりもみんなでやる方が楽しい」とは子供たちのコメント。この取り組みの創設理由である、「子供たちの居場所を作りたい」という思いは見事に達成されているようでした。矢賀中央集会所では、多世代カフェも開催されており、みんなで料理をして交流するなど、地域福祉、地域交流が盛んにおこなわれているそうです。地域共生社会の実現に向けた取り組みを知ることが出来ました。



8月23日 やさしさ発見プログラム打ち合わせ会議

11/1に行われる、やさしさ発見プログラムの打ち合わせ会議に参加しました。手話サークル「Wa」のみなさん、プログラムを行う温品小学校の先生と当日の内容決定や、意見交換を行いました。写真はその一環として、実際に補聴器で周りの音がどのように聞こえるのかを体験した様子です。私たちの脳は言語と周囲の音を判別できるので、騒音の中でも他の人の言葉を聞き分けることが出来ます。しかし、補聴器はそれが出来ず、ただ周りの音を拾うだけなので騒音のなかでは人の声を聞き分けることが非常に難しかったです。このような実態を広めていくことも、この事業の役割だと学びました。



約1か月にわたって東区内の様々な場所を訪問させて頂き、その先でたくさんの方と交流させて頂きました。21年間、東区に住んできましたがこれほど多くの方が一生懸命に地域福祉の推進に取り組んでおられるとは知りませんでした。中でもCozy Rosyは自分が小学生の時にあったらよかったなと思います。今回、学んだことを踏まえ社会福祉士としての学習に役立てて行きます。大変多くの方にお世話になりました。どこかで見かけましたら、声をかけていただけますとうれしいです。

in温品

8月24日 にここ南二丁目 百歳体操クラブ

今回は第一病院で定期的に行われている、百歳体操サロンと認知症支え合いカフェに参加させていただきました。いきいき百歳体操は、おもりを4つずつつけた状態で参加しましたが、なかなかしんどかったです。おもりは6つまでつけられるので、その場合はかなりの運動になると思われます。そのあとは認知症支え合いカフェに参加しました。この日は比治山大学から講師をお招きして、「記憶と注意の心理学」の講義を簡単なゲームを交えながら楽しく行われていました。今回体験して感じたことは、このサロンの楽しさをより多くの地域の方に伝えたい、ということです。和気あいあいとした様子は実際に試してみないと伝わりにくいです。この楽しさをその場にいるかのように伝える手段の実現が課題と感じました。このサロンがより多くの人で賑わってほしいと思います。



1か月間ありがとうございました



Cozy Rosyとは??

中山集会所ホールで開かれている、放課後フリースペース。過ごし方は自由で勉強や工作、室内用の遊び道具を使って遊ぶこともできます。



初めまして！県立広島大学三原キャンパスから来ました。実習生の中西慧丞です！生き物が大好きで、家でも亀やヤモリを飼っている、しがない21歳です。この記事は僕が担当しています。よかったら見ていってください！



カメの「てる」ちゃんです！

in戸坂城山